



2017(平成29)年に開催される「^{えがお}愛顔つなぐえひめ国体」。今年度の「みきゃん通信」では、鬼北町で行われる民泊に協力いただき、24の民泊協会の会長から民泊に向けた意気込みなどを聞いていきます。(※紹介順は届け出順です)

奈良中組民泊協会(奈良中／近永地区)



会長 松田 春男

団結力の向上を目指し立ち上げをした、奈良中組民泊協会は、「全員で成し遂げよう」を目標に掲げています。

先日開催されたリハーサル大会に参加した松田会長はこう話します。「応援するチームが試合に勝てばもちろん嬉しいが、その分長期間、会員に負担をかけてしまうことを懸念していた。しかし、リハーサル大会で、選手と同じように嬉しがったり、悔しがったりする会員たちの姿を見て、その心配はなくなった。本番では、ぜひ勝ち残ってほしい」と、心境の変化を振り返りました。また、応援の力を実感したという松田会長。「本番はもっと大きな声と手振りで、応援したい」と、嬉しそうに話していました。

「やれるときにやらないけん」と話す松田会長は、奈良中組民泊協会独自で活動計画表を作成するなど、国体に向けての準備は万全です。松田会長は、『鬼』という漢字がつく町だけど、優しさに溢れた町だと、選手たちに思ってもらえるよう、精一杯のおもてなしをしたい」と、目を輝かせながら意気込んでいました。

小倉民泊協会(小倉／泉地区)



会長 芝 修次

「民泊を通して小倉区を盛り上げたい」という思いから、小倉民泊協会は結成されました。

小倉民泊協会の拠点となる小倉コミュニティーセンターは、屋内外ともに広大な敷地が特徴です。芝会長は、この広さを利用したおもてなしをしたいと考えています。また、小倉コミュニティーセンターの側には広見川が流れており、芝会長は、「この美しい広見川が、選手の心を癒す一つになれば」と、微笑んでいました。

「64年ぶりの愛媛での国体、そして民泊体験は、一生に一度あるかないか。いいタイミングに巡り合えて嬉しい」と、笑みを浮かべる芝会長。そんな芝会長は、先日開催されたリハーサル大会で、初戦敗退の悔しさを味わったそうで、「欲を言えば決勝戦まで残り、最後の最後まで国体と民泊の雰囲気を楽しみたい」と、笑顔で話していました。

芝会長は、「選手にとっても民泊体験は最初で最後かもしれない。少しでも選手の心に残るようなおもてなしがしたい」と、強く意気込んでいました。